

ヒューマンエラーに起因する 事故対策について

国土交通省近畿地方整備局企画部技術調査課

課長補佐 いづつ よしゆき
井筒 由幸

1. はじめに

近畿地方整備局管内における平成17年度直轄工事事故は、もらい事故を含めて254件の事故が発生し、このうち死亡事故が4件となった。平成18年度事故も、6月末時点でもらい事故を含めて48件（速報値）で、事故は減っていない。また、近畿管内の事故発生件数は、全国トップの件数と不名誉な記録となっている。このことから、近畿管内は事故が起こりやすい土地柄と考え、より一層、安全施工に配慮し、工事を進めることが重要である。

今回は、平成17年度の工事事故のうち、その大半を占めるヒューマンエラーに関する事故概要とその対策について紹介させていただき、工事の安

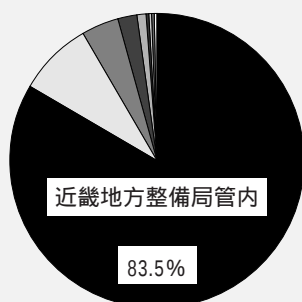
全管理について少しでも役立てていただければと思う。

2. 事故発生概要

ヒューマンエラーを原因とする工事中事故件数は、全体件数の約50%を占め、毎年高い頻度で発生している。危険と隣り合わせの工事現場では、一瞬のうっかりやぼんやりが大惨事に繋がることが多い。事故の発生状況を知り、自分の現場でこのような事故が起こらないように、安全に対する意識を高くもち作業にあたることが必要不可欠である。

●H17ヒューマンエラー要因別、事故発生構成は次のとおり。

ヒューマンエラー事故要因別構成



ヒューマンエラー【9分類】

危険軽視・慣れ・悪習慣・工期優先	(83.5%)
単調反復動作による意識レベルの低下	(8.2%)
緊急時のあわて、パニック状態	(4.1%)
近道本能、省略本能、能率本能	(2.1%)
無知、未熟練、経験不足、教育不足	(1.0%)
疾病、疲労、体質、急性中毒	(0.3%)
場面行動本能	(0.3%)
錯覚（外的、内的）	(0.3%)
中高年齢者の機能低下	(0.2%)

そのほとんどは、危険軽視・慣れ・悪習慣・工期優先によるもの。
その次に、単調反復動作による意識レベルの低下が起因。

3. 発生事例（現場での「うっかり」「ぼんやり」が事故に直結！）

- エラー１：危険軽視・慣れ・悪習慣・工期優先によるもの

事故例① 1人の作業員が次の除草場所へ移動しようと、別の作業員の背後から左横を通り過ぎようとしたところ、作業中の草刈機の刃が、移動中の作業員の右足に接触した。

原因 作業員の不安全行為があった。（危険軽視）

事故例② 事務所構内で官用車を方向転回させたところ、構内の車庫に車体の後部が接触し、車庫のシャッター支柱が損傷した。

原因 官用車を運転していた車両管理員の運転操作ミスがあった。（慣れ）

- エラー２：単調反復動作による意識レベルの低下によるもの

事故例 カッターナイフでホースを切断中、手元が滑り作業員が手を負傷した。

原因 単純な作業であったため、手元の注意が疎かになった。（単調反復作業）

- エラー３：近道本能、省略本能によるもの

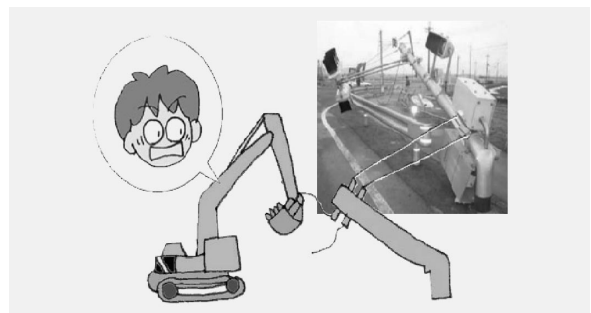
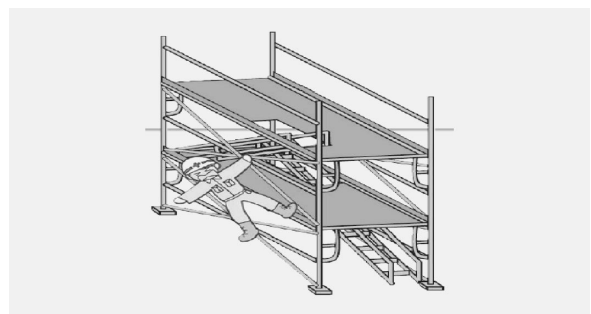
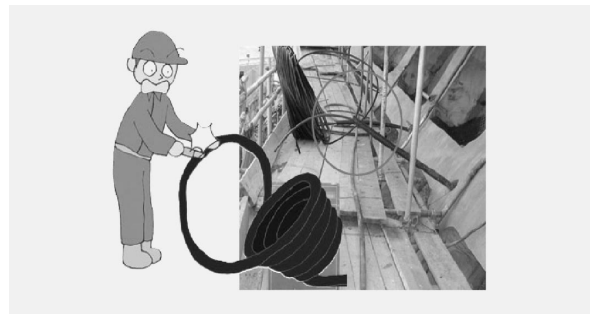
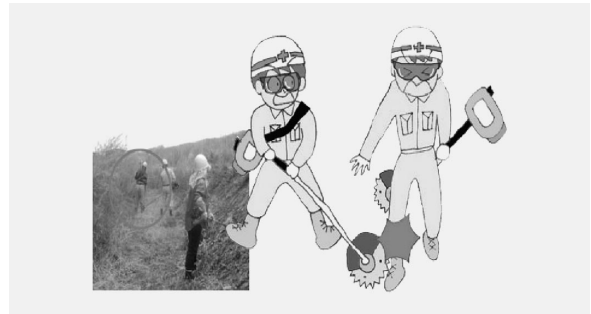
事故例 作業員が昼休憩に入るため、枠足場材の支柱部分をつたって降りていたところ、根がらみ材で足を踏み外し転落した。

原因 昇降設備を通らずに、近道して降りようとした。（近道本能）

- エラー４：無知、未熟練、経験不足、教育不足によるもの

事故例 バックホウのアームをあげたまま移動していたところ、アームが架空線を引っ掛けた。

原因 移動の際、周りの架空物件の確認を怠った。（未熟練）

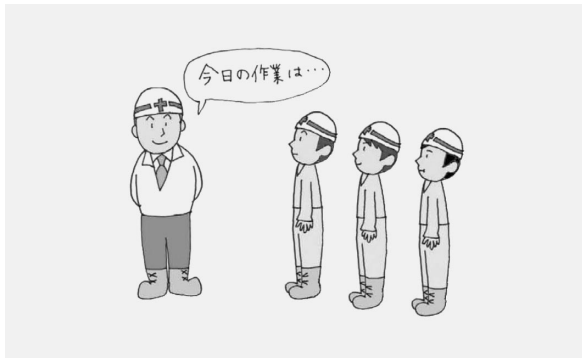


4. 防止対策

(ヒューマンエラーを防ぐために！)

①事前の打合せを十分に行う

- 作業開始前に、作業内容の確認および変更事項の連絡などを確実に行う。
- 初めての仕事従事者や、経験の浅い方の作業参加の時は、特に綿密な打合せが必要。



②常に危険だと危険意識をもつ

- 慣れ、危険軽視がヒューマンエラーに繋がる。
- 現場には危険がたくさんあるという意識をもち、安全のためのルールや指示を守ることが必



要。

③設備改善に努める

- 教育訓練だけでは限界があり、現場に即した二重のヒューマンエラー対策が必要。
- 作業員の安全活動を促進させる対策（安全帯の使用など）
- 作業員が不安全行動をしても、それをカバーする対策（墜落防止ネットなど）

④健康管理に留意する

- 十分な睡眠をとって疲労回復に努める。
- 定期的に健康診断を受け、体調管理に気を配る。
- 休業中に適度に休息をとり、気分転換を図る。

5. おわりに

このような「ヒューマンエラーによる事故」の現状を踏まえ、安全対策意識の向上を図っていたため、近畿地方整備局では、平成17年度に事故防止対策を推進する啓発用のパンフレットを作成し、技術者講習会等の機会を通じて受講者等に安全対策意識の向上を図っている。

平成18年度も、引き続き安全対策意識の向上を図るとともに、ヒューマンエラーを防止するためのモデル工事を選定し、現道事故をはじめとする事故発生件数の抑制に努めてまいりたい。

